

平成 22 年度 新地方公会計制度による 「財務4表」を公表します

町の平成22年度決算について、企業会計的な考え方をとり入れた「新地方公会計制度」による財務4表を作成しました。

財務4表は、今までの決算書などに加えて、保有する資産の価値や負債の状況、行政サービスの提供のための費用の使い方などを示すことで、よりわかりやすい財政状況の把握・説明や改善に活用するものです。

財務4表をみると、現在の町の財政状況は概ね健全性を保っていることができますが、支出に対する地方債（借金）の償還（返済）の割合が大きく、また施設の老朽化もあることから今後の更新などの計画も必要となってきています。

税務財政課 財政健全化推進グループ ☎74-3003

資金収支計算書（キャッシュフロー計算書）

1年間の現金の流れと収支を整理したものです。現金の出し入れを性質別に区分することで、どのような活動に現金を必要としているかを示しています。

21年度は当期資金収支は赤字となっていましたが、22年度においては交付税や補助金収入等の増、また健全化による歳出削減などにより黒字に転じています。

また、財務的収支においても新たな借入よりも起債（借金）の償還（返済）額が大きいことから、借金残高が減少していることがわかります。

税収などは減少していますが、国道からの補助金の増や前年度に行った単身者住宅の繰上償還などの支出の減により黒字が3億1000万円増えました

資本的収入、資本的支出ともに増えましたが、基金繰入金の増などにより収入の増加が上回ったことから赤字が600万円減りました

財務的収入、財務的支出ともに減りましたが、繰上償還を行ったことにより支出の減少が少なくなったことから、赤字が1億円増えました

期首（21年度末）資金残高	1億4000万円
当期資金収支額	5000万円
1. 経常的収支（行政サービス）	25億円
経常的収入（毎年度経常的に入ってくる収入）	94億3000万円
経常的支出（毎年度経常的に必要な支出）	69億3000万円
2. 資本的収支（資産形成）	△1億7000万円
資本的収入（資産形成の財源として入ってきた収入）	3億3000万円
資本的支出（公共施設の整備や基金への積み立てなどの支出）	5億円
3. 財務的収支（町債など）	△22億8000万円
財務的収入（地方債の借入）	7億4000万円
財務的支出（地方債の償還）	30億2000万円
期末（22年度末）資金残高	1億9000万円

基礎的財政収支（プライマリーバランス）
23億3000万円（経常的収支+資本的収支）



増える要因もありましたが、下水道使用料や雑入の減などの影響で2000万円減りました

子ども手当などの増はありましたが、職員数の減や独自削減などで7000万円減りました

国の活性化事業による修繕の減などで6億3000万円減りました

東日本大震災の見舞金や大磯漁港の負担金、扶助費や水産関係の補助金の増などで3億円増えました

償還終了による地方債の償還利息が7000万円減りました

昨年比 3億1000万円の増（20億2000万円）
起債（借金）の借入と償還（返済）を除いた本来の収入で財政運営を行うことができているかがわかります。